

## アサヒ繊維工業株式会社

代表取締役社長 浅井 耕治



### 会社の沿革

1946年に祖父が一宮市にアサヒ繊維研究所を設立し、紡績会社役員だった経験を生かして、反毛加工、羊毛トップ加工やフェルト製造を始めました。49年に現在のアサヒ繊維工業株式会社に社名変更しました。58年にマーキング用中綿フェルト製造を開始し、61年にはマーキング用アクリル繊維ペン先の開発に着手しました。その後フェルトを接着剤で固めるペン先、続いてより丈夫な合繊ペン先を開発し、後に特許も取得しました。69年度から3度、ペン先の中国への輸出企業として通商産業大臣表彰を受けています。74年には大手化学メーカーが開発した素材を利用して、熱接着繊維製マーキングペン用丸中綿を開発しました。このファイバーロッドは種々に応用され、現在まで主力製品のひとつになっています。75年には商工組合

中央金庫発行「中小企業知識集約化事例集」に合繊ペン先が掲載されました。76年には熱接着繊維製ローラーが大手メーカーの超高速ファクシミリーの現像用ローラーに採用されました。その後マイクロフォンのインナーフィルター用部品、液体芳香剤、消臭剤の吸上芯を開発しました。また植木鉢底面給水用繊維棒、記録計やプロッターの平型中綿、簡易防塵マスクの製造を始め、次々と応用分野を開拓して参りました。さらに密度勾配のある、長寿命極小フィルターや船舶用大型油水分離フィルター部品、植物水耕栽培用培地を開発しました。70年代から繊維屑を使用したリサイクル型ファイバーロッドを製造し、最近では、リサイクルPETを使用したファイバーロッドや、生分解性繊維を使用したファイバーロッドの用途開発を行っています。

### マーカーペンとの出会い

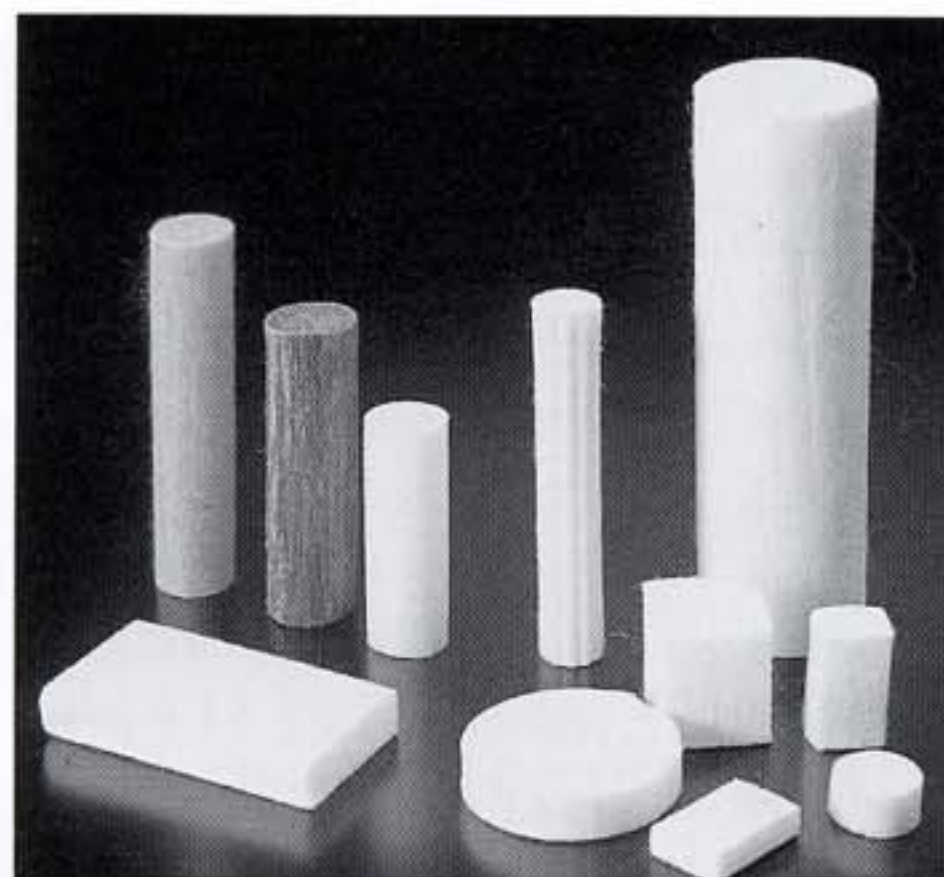
アサヒ繊維は、繊維製特殊加工品の企画開発メーカーとしてマーカーの中綿、マーカーのペン先、芳香剤や消臭剤の吸上芯、空圧機器用フィルター、浄水器フィルターの部品、各種フィルター、医療用部品等の商品開発を行っています。原料である合成繊維に、それぞれの用途に合わせた独自の加工を施すことによって、様々な製

品の機能部品を作り出しています。

代表的なものが、マーカー用部品です。誰もが何気なく使っているものですが、そこには様々な工夫が施され、アサヒ繊維の技術が活かされています。1958年に発売された日本初のマーカーは、どんなものにも書け、しかもすぐ乾く画期的な筆記具で、瞬く間に世の中に広まり、現在も広く愛用されています。力をいれずに、にじんだり、かすれたりすることなくインクをのせる。それはまさにマーカーの中綿を作り続けたアサヒ繊維の歴史そのものと言えます。そしてアサヒ繊維は創業以来、現状に満足しない品質本位の姿勢で仕事に取り組み、生産機械も自社で開発し、一つの製品に対してもより高い付加価値を追求することで、独自性のある製品を作り出してきました。

### ファイバーロッド

1974年に大手化学メーカーの開発した熱接着繊維を素材として中綿に応用することに成功しました。この熱接着法は、成分の融点温度差を生かした独自の技術と言えます。一定温度で低融点成分を溶かして固めると繊維間に三次元網目状の隙間ができて、これが中綿などに欠かせないインクを溜める小部屋となる仕組みです。この技術を生かした製品は現在ファイバーロッドと呼ばれています。ファイバーロッドは熱接着繊維を主原料とし、接着剤を使用しないピュアな製品であり、行き届いた品質管理により、外皮だけでなく、中心



ファイバーロッド

部まで均一に接着させて安定した強度を確保し自動組立機にも対応することができます。ファイバーロッドは現在芳香剤の吸上芯など生活の場から浄水器フィルター部品や特殊プリンタのインクタンクまで幅広く利用されています。最近ではわさびなど水耕栽培の培地として実用化が始まった他、環境関連商品や医療関連分野への用途開発も着々と進めています。

### MF フィルター

熱接着繊維の長所を生かした主要製品のひとつに空圧用、塗料用、浄水用に使用される各種フィルターがあります。オレフィン系熱接着繊維を主原料としたものは、機械的強度が大きく、耐薬品性に優れ、圧力損失が少なく流量が大きく取れるので、フィルター寿命が長いことも大きな特徴となっています。粗い粒子と細かい粒子とを順次に分離する粒径の異なるフィルターが積層されたフィル

ターもあります。全て受注生産でお客様のご要望に合わせたサイズに対応でき、小型化には最適です。ここ4~5年でフィルター生産を拡大してきましたが、既存のお客様の他に、さらなる新規のお客様との出会いを求めて、若い営業担当者が奮闘中です。最近では新聞や技術者向けの広告情報誌に広告を

掲載して、興味のある開発、設計担当者にアサヒ繊維の製品パンフレットや実物サンプルセットをお送りして、新しい用途と業界との接点を模索しています。ホームページ(<http://www.asahi-fiber.co.jp>)からの問い合わせも増加しています。

### 生産機械の開発

新しい製品の注文を受けると、より品質の高い製品を生産するために、アサヒ繊維では、その製品を作る生産機械を自ら開発しています。そうして作られた世界に一つしかない機械が、アサヒ繊維の技術を支え、大きな原動力となっています。大手企業と共同開発した機械もあり、その開発力は高い評価を受けています。今までの既成概念にとらわれることなく、斬新な発想で生産機械を開発することが、より優れた製品を生産するための最も近道であると信じています。今後も独自のノウハウと技術をご提案しながら、お客様のご

要望に100%応える製品づくりを目指して、様々なニーズに柔軟な対応と高い技術力で応えて行きたいと考えています。

### 新しい可能性を拓く

アサヒ繊維が、現在研究開発を進めているものに、生分解性繊維を使用した水耕栽培の培地の商品開発があります。ワサビやトマトの育苗培地やイチゴ、ホウレン草の培地として、使用できないか模索中です。このようにアサヒ繊維では、地球環境を考えた取り組みも常に考えて、ジャンルを問わず、暮らしに役立つ商品開発に努め、常に新しい可能性に挑戦しています。また今まで人の手によって行われた工程の自動化を実現し、均一で優れた品質を持った製品の生産を可能にしました。しかしこの自動化はあくまで人の力・アイディアを生かすための省人化であり、より付加価値の高い商品の企画・開発に力を入れるためのものであります。

アサヒ繊維の目指す商品は、基盤技術でありハイテクとは言えないかも知れませんが、社会に寄与する重要な機能部品であると考えています。工場で生産する機械や、治具等は、全てアサヒ繊維の技術部で設計・製作していますので、ご希望のサイズで直ぐに試作することができます。アサヒ繊維が作る繊維や不織布の特殊加工製品について皆様と一緒に考えて付加価値の高い新しい製品を開発して行きたいと願っています。